

鶏肉情勢

令和4年8月9日 更新

全農チキンフーズ(株)

| 項目 | 内容 | |
|--------------------|---|--|
| 1. 国内 | (1) 生産・処理動向調査(一社)日本食鳥協会令和4年6月末実施)によると6月の推計実績は処理羽数60,936千羽(前年比101.3%)・処理重量183.9千t(同100.8%)となった。前月時点の計画値より処理羽数は0.8%上方修正され、処理重量は0.7%上方修正となっている。気温上昇の影響で増体の鈍りや大腸菌症の発生などが見られたものの、前月予測から処理重量と処理羽数の修正値はほぼ同じであることから、育成は概ね安定しているように見られる。 | |
| | (2) 7月の処理羽数・処理重量はともに前年を下回る見通しとなっており、地区別で見ると北海道・東北・関東地区で処理重量が前年を大幅に下回っており、高騰する飼料の使用を控えるため出前日齢を抑えていることが考えられる。一部工場では海外技能実習生の入国が再開されつつあると聞かれるが、人数が完全に回復するのは当分先のようだ。加工品(手羽中・胸肉・砂肝・スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整が今後も見込まれる。また、8月以降、新型コロナウイルス感染拡大による工場稼働への影響も懸念される。 | |
| | (3) 7月の処理羽数・処理重量はともに前年を下回る見通しとなっており、地区別で見ると北海道・東北・関東地区で処理重量が前年を大幅に下回っており、高騰する飼料の使用を控えるため出前日齢を抑えていることが考えられる。一部工場では海外技能実習生の入国が再開されつつあると聞かれるが、人数が完全に回復するのは当分先のようだ。加工品(手羽中・胸肉・砂肝・スライス等)や副産品(小肉・ハラミ等)の調整が今後も見込まれる。また、8月以降、新型コロナウイルス感染拡大による工場稼働への影響も懸念される。 | |
| 2. 輸入 | (1) 財務省7月28日公表の貿易統計によると令和4年6月の鶏肉(原料肉)の輸入量は前月から9.7千t、増の52.2千tで、国別ではブラジルが+6.5千t、タイが+2.9千tとなっている。前年同月の実績に対しては9.3千tの増となった。新型コロナウイルスの影響によるタイの人手不足が回復傾向にあり、輸入量が戻りつつある。(独)農畜産業振興機構(ALIC)によると今後の見通しでは、7月が44.1千t(前年比98.5%)、8月が47.1千t(前年比100.4%)となっている。6月実績より徐々に輸入量は増加しており、韓国の鶏肉輸入関税撤廃によりブラジル産の買い付けが韓国へ流れていたが上限に達したため、日本向けへ戻る可能性が予想される。ただし、今後の買い付けは12月・1月の入船予定となるため年内は現状の価格水準が続く見通しである。懸念材料として、外部冷蔵庫において在庫積み増しとなっており、新たに入庫が出来ない状況が発生している。一部在庫消化の話も出ているので、今後の動向に注視したい。 | |
| | (2) 鶏肉調整品の輸入量は前月から4.0千t、増の46.2千tで、国別では中国が+0.6千t、タイが+3.4千tとなった。前年同月の実績に対しては5.7千tの増となった。タイの人手不足が回復傾向にあることEU向けの引き合いが落ち着いてきたとの話もあり、徐々に国内向けにオファーがきている。外食についてはコロナの影響がどの程度出てくるかが懸念事項であるが、中食・総菜向け等の引き合いは継続して強い状況なので、今後の動向に注視したい。 | |
| | (3) 財務省が7月28日に公表した貿易統計によると6月の輸入鶏肉(解体品)の価格は前年同月より53.8%上昇し、鶏肉調整品は前年同月より19.0%上昇した。依然として、世界的なコストアップや為替相場の変動により高値が続いており、ブラジル産の価格は301円/kg(前月比33円高)、タイ産が28円/kg(同13円高)となっている(国別平均価格)。ブラジル産は世界的なコスト高や円安の影響もあり価格が上昇しており年内は現状の水準との予測である。タイ産については人手不足の回復やEU向けが落ち着いてきたとの話もあるため、今後の国内産鶏肉への影響に注視したい。 | |
| 1. 家計消費 | (1) 総務省統計局発表の家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)によると、令和4年6月の生鮮肉消費(購入)は数量3,917g(前年比93.1%)、金額5,989円(同98.1%)と、数量・金額共に前年を下回った。鶏肉は数量1,433g(同98.1%)・金額1,375円(同103.5%)・単価96.0円/100g(前年同月+5.1円)と、数量は前年を下回ったものの、金額・単価は上回る結果となった。調理食品は数量10,918円(同100.8%)、外食が11,994円(同131.9%)となっており、新型コロナウイルス感染が落ち着き、外食へ行く世帯が増えたと考えられる。 | |
| | 2. 量販・卸 | (1) 食品関連スーパー3団体の販売統計速報によると、令和4年6月の食品売上高は全店ベースで前年比98.1%と前年を下回った。生鮮3部門の売上高は全店ベースで同96.9%、既存店ベースは同95.7%となった。また、畜産部門の売上高は約1,106.3億円で全店ベース同97.7%、既存店ベース同96.4%となった。一般社団法人全国スーパーマーケット協会によると、内食需要の落ちつきや相場高騰により全般的に買入点数が低迷した影響を受け不振となった。牛肉は、国産牛を中心に焼肉用が比較的好調も、輸入牛は価格高騰により不振となっている。気温が高く、火を使う食材が不振とのコメントがみられた。豚肉や鶏肉に需要がシフトしており、冷しゃぶをはじめとする涼味用食材の動きがよくなった。ハムなどの加工肉は前年に好調だった反動もあり、伸び悩んだ。仕入価格の高騰が、利益を圧迫しているとの指摘がみられた。 7月に入り新型コロナウイルス感染が再拡大していることで、再び内食需要が高まる可能性もあるが、行政による行動制限は現状では予定されておらず、慎重に消費者動向を見守る必要がある。物価高騰の影響は国内経済全体に波及しつつあり、家計の節約志向が食品以外の消費にも広がることは、スーパーマーケットでの消費行動に与える影響がマイナスだけに作用しない可能性もある。 |
| | | 3. 業務・加工筋 |
| 1. 令和4年6月(2022年6月) | (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)の推計期末在庫では国産30.5千t(前年比89.1%・前月増▲0.7千t)、輸入品119.1千t(同97.8%・同+3.4千t)と合計で149.6千t(同96.0%・同+2.7千t)となった。 | |
| | 2. 見通し | (1) (独)農畜産業振興機構(ALIC)が発表した鶏肉需給表(令和4年8月8日更新)では、6月の出回り量は国産140.9千t(前年比103.1%・前月差+1.9千t)、輸入品48.8千t(同96.7%・同+5.7千t)と合計で189.7千t(同101.4%・同+7.7千t)となった。7月以降の国産在庫については、競合する輸入鶏肉の高騰等から引き合いが強く在庫は減少していくと予想する。輸入鶏肉の入荷量は前述の(独)農畜産業振興機構(ALIC)予測でもあるように7月は前年をわずかに下回り、8月は前年をわずかに上回る見通しであり、外食・総菜向け等の引き合いが強いことから、7月以降の輸入品在庫は減少していくと予想する。 |
| 1. 令和4年7月動向 | (1) 令和4年7月の月平均相場は、モモ肉637円/kg(前月差+13円)・ムネ肉340円/kg(同+14円)正肉合計で977円/2kgと前月を27円上回り、前年同月を76円上回った。モモ肉相場は月初627円、月末は643円となった(昨年は月初617円、月末582円で35円の下げ)。昨年の相場より単価が上回り、上げ基調になっている。要因としては依然として牛・豚等と比較すると安価な鶏肉に消費者の需要があることや、一部給食向け等の需要が考えられる。また、生産状況も夏場の暑さの影響を受け増体が伸びず供給量が減少し需給が縮まったのではないだろうか。 ムネ肉相場は、輸入品価格の高騰等から加工向けの引き合いが依然強く、競合する輸入鶏肉の在庫水準が低いことも相まって、前月から14円の上げとなった。供給量が減少する中、加工メーカーとの定期取引等から在庫確保自体が薄く、安価で国産ムネ肉を集荷することは非常に厳しい。 | |
| | 2. 見通し | (1) 8月の生産量は、依然として猛暑による増体悪化により減少する可能性がある。また、コロナ禍による工場稼働への影響も懸念される。ただし需要面では、気象庁発表の10月ごろの天候の見通し(8月)によると、8月上旬から中旬の気温は全国的に高い予測となっており、下旬は平年並みか平年よりも高くなる予測となっていることから、猛暑による食肉需要自体の減衰が考えられる。また、外食の消費についても新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいく可能性が考えられる。一方で輸入鶏肉の価格が依然として高騰しており、主に加工メーカーからの問い合わせが増え続けている。また、需要期に向けたも肉凍結品在庫が不足しているため価格には下がることは考えづらい。以上から、生鮮品の販売については一部落ち込みも予想されるが、凍結品の需要が依然として高いことから、モモ肉相場はもちあいの月平均640円前後と予測する。ムネ肉相場はやや上げの月平均350円と予測する。 (2) 直近の販売状況は、モモ肉の凍結を回避するために量販店への特売等で生鮮品を消化する動きから、凍結品の価格上昇、年末用の凍結モモ肉・骨付きモモ肉の確保、輸入品高騰から国産鶏肉への切り替え等のため、販売会社各社で濃淡があるが凍結品に回す動きが出てきた。量販店においては鶏肉に限らず輸入食肉全般の価格が高騰していることから特売を打ちまく、苦慮していると聞かれる。一般家庭では暑さにより火を使った調理を避ける傾向があることから、冷しゃぶをはじめとする涼味用食材の動きが良くなるだろう。様々な食品の値上げが相次ぐ中、他の畜種と比較すれば、安価なたんぱく質として消費者のニーズを捉えているため販売は堅調に推移していくと思われる。 |

実績

生産状況 単位:千羽、千トン、%

| | R4年6月推計実績 | | R4年7月計画 | | R4年8月計画 | | R4年9月計画 | |
|------|-----------|--------|---------|-------|---------|--------|---------|--------|
| | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 | 数量 | 前年比 |
| 入屠羽数 | 61,125 | 101.2% | 63,322 | 99.1% | 65,697 | 100.4% | 66,651 | 101.5% |
| 処理羽数 | 60,936 | 101.3% | 59,012 | 98.4% | 59,671 | 102.9% | 60,428 | 101.6% |
| 処理重量 | 183.9 | 100.8% | 173.5 | 96.5% | 175.6 | 102.4% | 178.7 | 100.5% |

※参考資料: 財務省「鶏肉需給表」

輸入動向 単位:千トン、%

| 品名 | 鶏肉 | | | 調製品 | | | 合計 | | | 比率 | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|---------|-------|------|------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 鶏肉 | 調製品 |
| R3年累計 | 595.8 | 535.0 | 111.4 | 481.0 | 469.5 | 102.5 | 1,076.8 | 1,004.5 | 107.2 | 55.3 | 44.7 |
| R4年1月 | 53.8 | 48.9 | 109.9 | 43.2 | 33.7 | 128.3 | 97.0 | 82.6 | 117.4 | 55.5 | 44.5 |
| R4年2月 | 49.6 | 45.5 | 108.9 | 38.8 | 34.2 | 113.3 | 88.4 | 79.8 | 110.8 | 56.1 | 43.9 |
| R4年3月 | 46.1 | 55.6 | 81.1 | 47.8 | 43.9 | 108.7 | 92.9 | 99.5 | 93.3 | 48.6 | 51.4 |
| R4年4月 | 43.6 | 50.2 | 86.9 | 44.1 | 45.8 | 96.3 | 87.7 | 96.0 | 91.4 | 49.7 | 50.3 |
| R4年5月 | 42.5 | 46.2 | 91.9 | 42.1 | 36.0 | 117.1 | 84.6 | 82.2 | 102.9 | 50.2 | 49.8 |
| R4年6月 | 52.2 | 42.8 | 121.9 | 46.2 | 40.5 | 114.2 | 98.4 | 83.3 | 118.1 | 53.0 | 47.0 |

※参考資料: 財務省「貿易統計」、(独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

鶏肉の消費動向 単位:グラム、円、%

| 履歴 | 数量 | | | 金額 | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R3年平均 | 1,526 | 1,565 | 97.5 | 1,410 | 1,440 | 97.9 |
| R4年1月 | 1,563 | 1,582 | 98.8 | 1,450 | 1,469 | 98.7 |
| R4年2月 | 1,483 | 1,428 | 103.9 | 1,404 | 1,359 | 103.3 |
| R4年3月 | 1,550 | 1,528 | 101.4 | 1,439 | 1,406 | 102.3 |
| R4年4月 | 1,512 | 1,556 | 97.2 | 1,368 | 1,384 | 98.8 |
| R4年5月 | 1,476 | 1,527 | 96.7 | 1,403 | 1,426 | 98.4 |
| R4年6月 | 1,433 | 1,461 | 98.1 | 1,375 | 1,328 | 103.5 |

※参考資料: 総務省統計局「家計調査報告(全国・二人以上の世帯1世帯あたり)」

相場(年別・暦年) 単位:円

| | モモ肉 | ムネ肉 | 計 |
|------|-----|-----|-----|
| H26年 | 626 | 294 | 920 |
| H27年 | 639 | 336 | 975 |
| H28年 | 621 | 255 | 876 |
| H29年 | 626 | 315 | 941 |
| H30年 | 595 | 282 | 877 |
| R元年 | 585 | 243 | 828 |
| R2年 | 614 | 269 | 883 |
| R3年 | 641 | 313 | 954 |

在庫状況(推定) 単位:千トン、%

| 履歴 | 国産 | | | 輸入品 | | | 合計 | | |
|-------|------|------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R4年1月 | 35.1 | 26.5 | 132.4 | 123.2 | 129.5 | 95.1 | 158.3 | 156.0 | 101.5 |
| R4年2月 | 33.9 | 27.5 | 123.2 | 129.3 | 129.7 | 99.7 | 163.2 | 157.2 | 103.8 |
| R4年3月 | 32.5 | 28.8 | 112.9 | 125.2 | 135.0 | 92.7 | 157.7 | 163.8 | 96.2 |
| R4年4月 | 31.3 | 31.7 | 99.0 | 116.3 | 129.8 | 89.6 | 147.6 | 161.4 | 91.5 |
| R4年5月 | 31.2 | 32.8 | 95.1 | 115.7 | 129.4 | 89.4 | 146.9 | 162.2 | 90.6 |
| R4年6月 | 30.5 | 34.1 | 89.4 | 119.1 | 121.7 | 97.8 | 149.6 | 155.8 | 96.0 |

※参考資料: (独)農畜産業振興機構「鶏肉需給表」

相場(月別) 単位:円、%

| 履歴 | モモ肉 | | | ムネ肉 | | | 正肉合計 | | |
|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|--------|-----|-------|
| | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 | 当年 | 前年 | 前年比 |
| R4年3月 | 631 | 691 | 91.3 | 316 | 304 | 103.9 | 947 | 995 | 95.2 |
| R4年4月 | 622 | 678 | 91.7 | 315 | 305 | 103.3 | 937 | 983 | 95.3 |
| R4年5月 | 624 | 659 | 94.7 | 321 | 303 | 105.9 | 945 | 962 | 98.2 |
| R4年6月 | 624 | 631 | 98.9 | 326 | 296 | 110.1 | 950 | 927 | 102.5 |
| R4年7月 | 637 | 600 | 106.2 | 340 | 301 | 113.0 | 977 | 901 | 108.4 |
| R4年8月 | (640) | 583 | 109.8 | (350) | 308 | 113.6 | (990) | 891 | 111.1 |
| R4年9月 | (640) | 580 | 110.3 | (360) | 316 | 113.9 | (1000) | 896 | 111.6 |

※()は見通し